7. 栄えある内閣総理大臣表彰を受賞して（千葉県婦人防火クラブ連絡協議会　竹内会長）

「栄えある内閣総理大臣表彰を受賞して」

千葉県婦人防火クラブ連絡協議会
会長　竹内　久子

去る7月1日に内閣総理大臣官邸において安全功労者に対し、内閣総理大臣表彰が行われましたが、まさか、私がその個人表彰の対象になるとは夢にも思っておりませんでした。

安全功労者内閣総理大臣表彰という名誉ある受賞は、私にとり誠に身に余る光栄でございます。

このたびの受賞は、総務省消防庁をはじめ財団法人日本防火協会など消防関係の皆様のご厚情とご支援の賜ものと存じ、心から厚く御礼申し上げます。

顧ますと、私たちのクラブは結成以来、早や26年が過ぎました。この間、時代の変化、災害態様や住民意識の変遷のなか、火災をはじめ、地震、風水害等さまざまな自然災害に遭遇してまいりました。

最近の事例としては、新潟県中越地震の直後、私たちは財団法人日本防火協会から人的支援の要請を受け、余震が続く小千谷市を訪れました。はじめは、憔悴しきった被災者の方々にかける言葉にも戸惑いましたが、炊き出しなどささやかなボランティア活動に対して多くの方々に喜んでいただき、また、別れ際の涙を堪えながら笑みは生涯忘れ得ないものとなりました。

わが国の高齢化問題はさまざまな分野で深刻化してきています。殊に、ひとたび災害が発生しますと要援護者といわれる多くの高齢者が犠牲になることです。

平成15年度統計（消防白書）によりますと、全国における高齢者の焼死者数が17年ぶりに1,000人を超えました。これらの状況を踏まえ、消防法の改正がなされ、平成18年6月1日から、すべての新築住宅について火災警報器の設置が義務付けられ、また既存住宅についても、それぞれの市町村条例によりこれらの設置についての施行時期が定められることになりました。高齢者を火災から守るためには画期的なことだと思います。同時に、わが国における火災件数の大幅減少につながるものと期待されます。

私たち婦人防火クラブといたしましても、防炎品、住宅用火災消火器等の備え付けに併せ、火災警報器の設置に微力ながらその普及促進についてお手伝いができればと考えております。

「自分の身は自分で守る。」「自分たちの街は自分たちで守る。」は古くて新しい言葉です。

一人ひとりの力はいかに小さいものであっても、多くの人々の力が結集したときは、その力は大きなものとなります。いざというときに備えて、日頃から地域あるいは隣人同士でのコミュニケーションを緊密にし、防災意識の高揚を図ることが何より大切であるかと思います。

幸いなことに、私は、健康に恵まれているうえ、広く人間関係にも恵まれ感謝の気持ちでいっぱいでございます。また、理解と協力を惜しまず応援してくれた家族にも感謝です。

この度の受賞を励みとして、なお一層自己研鑽に努め、皆様とともに火災をなくすことを目指してまいりたいと考えております。

今後とも、皆様の旧に倍するご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

▲このページの上に戻る